

インドネシア国
ストモ病院救急医療プロジェクト
計画打合せ調査団報告書

平成 8 年 3 月

国際協力事業団
医療協力部

序 文

インドネシア国ストモ病院救急医療プロジェクトは、平成7年2月1日から5年間の協力期間で、同国東ジャワ州スラバヤにあるストモ病院において開始されました。同国保健省は、その国家保健計画の中で、本病院を東インドネシアの中核病院と位置づけ、国家レベルの医療サービス体制強化政策の中核を担うものとしています。なかでも、同国の経済発展に伴い、当該地域における交通事故や産業事故が増加傾向にあるため、救急医療の必要性が高まりつつあります。そこで、本病院を将来の救急医療サービスにおけるモデル病院とすべく、救急医療教育を中心とした救急医療部門に対するプロジェクト方式技術協力として実施しています。

平成8年1月、協力開始後約1年が経過し、上記技術移転の活動が軌道に乗りつつあるところ、国際協力事業団は、本プロジェクト派遣中の専門家の活動状況、当国側の対応等現状を確認し、プロジェクト実施上の問題点把握と今後の対応策について両国双方で協議することとし、1月7日から13日までの日程で、広島大学医学部教授 弓削孟文氏を団長として、計画打合せ調査団を派遣しました。本報告書は、その調査結果を取りまとめたものです。

ここに、本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる感謝の意を表しますとともに、プロジェクトの効果的な実施のために、今後とも、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成8年3月

国際協力事業団

理事 小澤大二

目 次

序 文

1 . 計画打合せ調査団派遣	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	2
2 . 要約	3
3 . 暫定実施計画の進捗状況	4

附属資料

ミニッツ	7
------------	---

1 . 計画打合せ調査団派遣

1 - 1 調査団派遣の経緯と目的

インドネシア共和国(以下、インドネシア)は近年近代化が進み、スラバヤを中心とする東部ジャワ州においても工業分野が急成長している。このような経済発展に伴い、当該地域における交通事故や産業事故が増加傾向にあるため、救急医療の必要性が高まりつつある。東部ジャワ州スラバヤに位置するストモ病院は、病床数 1,500 床、職員数 4,000 人の病院であり、同国保健省は、その国家保健計画の中で、本病院を東インドネシアの中核病院と位置づけ、国家レベルの医療サービス体制強化政策の中核を担うものとしている。なかでも、本病院を将来の救急医療サービスにおけるモデル病院とすべく、施設整備をするとともに、救急医療スタッフの育成・質の向上を図っていく計画を立案した。

このような状況のもと、ストモ病院における救急医療教育を中心とした救急医療部門強化に対するプロジェクト方式技術協力要請が、1993年4月の当該プロジェクト無償資金協力要請時にあわせてインドネシア政府より提出された。JICAは、1994年5月に事前調査団を派遣し、要請内容を確認したうえで協力スコープの概略について協議した。その後、要請内容につき詳細に調査すべく1994年9月に長期調査員を派遣した。以上の調査を受け、1994年12月に実施協議調査団を派遣し、インドネシア政府と討議議事録(R/D)を締結し、1995年2月よりプロジェクトを開始した。

プロジェクト開始より、ほぼ1年が経過したため、現状の問題点を把握し今後の計画を打ち合わせるため、本調査団を派遣することとなった。

本調査団は、チーフアドバイザーを含む5名の長期専門家、および8名の短期専門家の派遣、3名のカウンターパート研修員の受入れ、4,000万円の機材供与、技術交換、中堅技術者養成事業を実施および計画中所であるところ、協力開始以降の協力分野の技術移転の進捗状況を正確に把握し、問題点を検討し、今後の協力計画策定の指針を得ることを目的として派遣された。

具体的には、以下のとおりである。

ストモ病院はインドネシア国内ではトップレベルの病院であるが、ストモ病院側は技術協力の必要性について正しく認識していないきらいがある。必要性についての認識を改めてもらうべく協議する。

救急医療部門の医師と一般病棟の医師との連携がスムーズにいけない状況につき協議する。

救急看護のレベルが低い点につき、技術向上の方策について先方と協議する。

病院経営の観点から救急医療部門の経営状況・問題点等につき先方と協議する。

1 - 2 調査団の構成

	担 当	氏 名	所 属
団長	総 括	弓削 孟文	広島大学医学部麻酔蘇生学講座教授
団員	救急医療	後藤 琢也	聖マリア病院整形外科長
団員	病院管理	館内 巖	聖マリア病院新規事業部長
団員	救急看護	田中 京子	聖マリア病院看護部長
団員	業務調整	富谷 喜一	J I C A 医療協力部医療協力第一課

1 - 3 調査日程

日 順	月 日	曜 日	移動および業務
1	1月7日	日	移動 スラバヤ着(弓削団長以外)
2	1月8日	月	ストモ病院表敬(弓削団長スラバヤ着)
3	1月9日	火	ストモ病院救急医療チームと打合せ
4	1月10日	水	最終打合せ ミニッツ案について協議 ミニッツ署名交換
5	1月11日	木	大規模災害訓練に参加 移動 ジャカルタ着
6	1月12日	金	日本大使館、J I C A 事務所報告(弓削団長日本へ出発)
7	1月13日	土	日本へ出発(業務調整団員以外)

2 . 要約

本調査団の目的は、インドネシアストモ病院における救急医療部門強化を図るためのプロジェクト方式技術協力に関し、プロジェクトの進捗状況を確認し、問題点を把握し協議議事録(ミニッツ)を締結することであり、ジャカルタでの保健省との協議後、スラバヤへ移動し、ストモ病院側とも協議をした。協議議事録を締結したのちジャカルタに戻り、再び保健省と協議を行い、ストモ病院視察の報告を行った。

3 . 暫定実施計画の進捗状況

(1) 1995 年度計画について

インドネシア側、日本側双方とも、プロジェクトは、以下のとおりの T S I に明記されている活動を実施したことを確認した。

チーフアドバイザーを含む 5 名の長期専門家、8 名の短期専門家の派遣、
3 名のカウンターパート研修員の受入れ、
4,000 万円の機材供与、
技術交換、
中堅技術者養成事業

(2) 1996 年度計画予定について

1) 目的

機材および施設の円滑な使用およびメンテナンス
緊急医療診断と処置のレベルアップ
救急看護のレベルアップ

2) 専門家派遣

4 名の長期専門家(チーフアドバイザー、調整員、看護管理、病院看護)
短期専門家については、必要と認められる分野へ、双方合意のうえで適時派遣する。

3) 機材供与

日本政府が定めたプロジェクトの予算範囲内で、必要な機材を供与する。

4) カウンターパート研修

看護および病院管理における 3 名のカウンターパートを日本へ研修に送る。

附属資料

ミニッツ

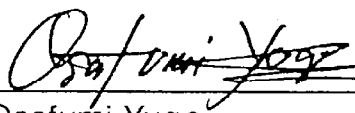
**MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR
THE UPGRADING THE EMERGENCY MEDICAL CARE SYSTEM OF
THE DR.SOETOMO HOSPITAL IN SURABAYA/EAST JAVA**

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr.Osafumi Yuge, Professor, School of Medicine, Hiroshima University, visited the Republic of Indonesia from January 7 to January 13, 1996 for the purpose of consulting the activities concerning the Japanese Technical Cooperation Project for the upgrading the emergency medical care system of Dr.Soetomo Hospital in Surabaya/East Java, and discussing the future implementation plan of the Project.

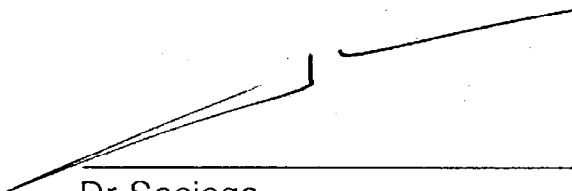
During its stay, the Team exchanged and had a series of discussions with officials from the Ministry of Health and other Indonesian authorities.

As a result of the discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached herewith.

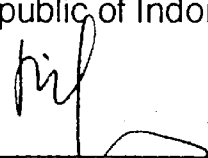
Surabaya, January 10, 1996



Dr.Osafumi Yuge
Leader, Consultation Team,
JICA
Japan



Dr. Soejoga
Director General of Medical Care
Ministry of Health
The Republic of Indonesia



Dr. M. Dikman Angsar
Director, Dr.Soetomo Hospital
Surabaya, East Java
The Republic of Indonesia

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Both sides agreed that the Project has been well organized and carried out as planned in the Record of Discussions.

(1) Dispatch of Japanese Experts

Five long term experts were dispatched in 1995FY including the Chief Advisor and the Coordinator.

Six short term experts were dispatched in 1994FY-1995FY in the fields of Emergency Medical Care, Nurse Administration, Radiology Technology, Medical Engineering and Hospital Pharmacy.

Three more experts will be dispatched by March, 1996 in the fields of Hospital Administration, Hospital Facility Administration and Medical Engineering.

(2) Provision of Equipment

As the budget of 1995FY, more than forty million Yen are provided by the Japanese Government in order to purchase necessary equipment for the technology transfer of the emergency medical care system in Dr. Soetomo Hospital.

(3) Counterpart Training in Japan

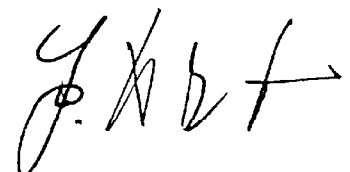
Two counterparts for nursing had their training in Japan in 1995. During their stay in Japan St. Mary's Hospital trained the Counterparts.

One counterpart for hospital administration will visit Japan January, 1996 in order to have his training in St. Mary's Hospital.

2. The Team and Indonesian sides made a working plan for 1996FY covering various aspects of activities based on the Record of Discussions.

(1) Purpose

- Smooth use and maintenance of equipments and facilities
- Level up of Emergency Medical Diagnosis and Care
- Level up of Emergency Nursing



(2) Dispatch of Japanese Experts

In the following fields, four long term experts will work in Dr. Soetomo Hospital 1996FY;

- Chief Advisor
- Coordinator
- Nursing Administration
- Clinical Nursing

Short term experts will be dispatched occasionally in related fields necessary for the project upon which both sides agree.

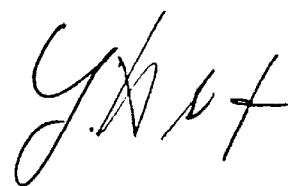
(3) Provision of Equipment

Necessary equipment will be provided within the limit of the budget of Japanese Government.

(4) Counterpart Training in Japan

Three counterparts will be sent to Japan for training in the fields of nursing and hospital administration.

3. Both sides appreciated the fruitful discussions and agreed to further continue their cooperation and joint efforts by all possible means for the successful completion of the Project and to promote friendly relationship between the two countries.

A handwritten signature in black ink, appearing to be 'J. N. S. F.', located in the bottom right corner of the page.